

未婚女子の結婚観

—ライフコースとの関連で—

中野英子

I はじめに

人口問題研究所は1940年を第1次として、すでに9次に及ぶ出産力調査を実施してきた。出産力調査は夫婦の出産力を調べるのがそもそもの目的であることはいうまでもないが、最近の未婚率の上昇、すなわち、晩婚化の進行にかんがみ、第8次出産力調査(1982年)から、夫婦調査と同時に、35歳未満の独身者を対象とする独身者調査をも併せて実施するにいたった。これは、すでに結婚した夫婦とこれから結婚しようとする未婚者との両方から結婚行動を分析し、晩婚化の解明に資することを狙ったからにはほかならない¹⁾。

第9次出産力調査では、有配偶女子の再就職の増加、晩婚化による未婚女子の就業の長期化などを背景に、夫婦調査・独身者調査の両方にライフコースに関する項目を設定し、結婚・出生行動を長期的な視野において把握しようとした。本稿は、第9次出産力調査の独身者調査に基づいて、未婚女子の結婚観をライフコースとの関連で明らかにするとともに、その結果をふまえて、晩婚化とライフコースとの関連についても若干の分析を試みたい。

II 結婚観を説明する指標としてのライフコース

1. 女子のライフコースの実態と考え方

第9次出産力調査の夫婦調査によると、夫が雇用者である妻が現実になりそうだと考えているライフコースは再就職コースが最も多くて45%であり、専業主婦コースの27%をはるかに上回っていた²⁾。一方、妻の就業歴をみると、第1妊娠(第1子出産)による雇用率の大幅な低下³⁾、さらに、子どもを生んだあとのパートタイムへという就業移動が明らかであった⁴⁾。この出生行動と雇用者としての

1) 独身者調査の結果については、厚生省人口問題研究所(阿藤誠・高橋重郷・小島宏・大谷憲司・池ノ上正子),『昭和57年 第8次出産力調査(結婚と出産に関する全国調査)——第II報告書——独身青年層の結婚観と子供観』, 実地調査報告資料, 1983年7月, および厚生省人口問題研究所(阿藤誠・中野英子・大谷憲司・金子隆一・三田房美),『昭和62年 第9次出産力調査(結婚と出産に関する全国調査)——第II報告書——独身青年層の結婚観と子供観』, 調査研究報告資料, 1989年3月, 阿藤誠・小島宏,「現代青年の結婚観——第8次出産力調査「独身者調査」の結果から——」,『人口問題研究』, 第168号, 1983年10月, pp.30-57, 阿藤誠・中野英子・大谷憲司・金子隆一,「青年層の結婚観と子供観——第9次出産力調査(独身者調査)の結果から——」,『人口問題研究』, 第188号, 1988年10月, pp.1-21を参照。

2) 中野英子,「有配偶女子のライフコース——その地域性の視点から——」,『人口問題研究』, 第45巻第2号, 1991年4月, p.38。

3) 中野英子,「結婚後の妻の就業」, 厚生省人口問題研究所(阿藤誠・中野英子・大谷憲司・金子隆一・三田房美),『昭和62年 第9次出産力調査(結婚と出産に関する全国調査)——第I報告書——日本人の結婚と出産』, 調査研究報告資料, 1988年11月, p.48。

4) 中野英子, 前掲(注3), p.46, および同, p.208, 表91。

就業移動との関連は、すでに第7次出産力調査（1977年）においても観察されていたから⁵⁾、この間、有配偶女子の再就職コースは着実に増加したといえる。

では、この再就職コースに対する考え方は一般にどう捉えられているだろうか。

総理府の世論調査によると、再就職コース支持は1970年代には40%に達していなかったが、80年代後半には50%を超え（「女子に関する世論調査」）、実態としても、考え方としても、女子の最も一般的なライフコースとしてすっかり定着した感がある。

再就職コースは、結婚や出産によって未婚時代の就業を中断し、その後また就業するコースであるが、この結婚後の一時的な中断期——出産・子育て期——にある無業の妻は、非常に強い再就職意欲を持っている（参考表1）。このことは、たとえば、労働力率と無業者の就業希望率とを合わせて女子労働力率のプロフィールを描くと、M字型の「谷」が消えて、男子に近い高原型のプロフィールになることから、その意欲の強さを知ることができよう⁶⁾。

このことは、女子が出産・子育てと就業を同時に両立させるといふよりは、家族のステージに応じて、どちらかにより比重をおくというライフコースを選択しようとしていることを意味している。

参考表1 無職の女子の再就職希望(%)

年 子 ど も	再就職希望
20 - 29 歳	76.0
30 - 39 歳	69.1
子どもあり	
乳 児	75.5
幼 児	70.0

「女性の就業に関する世論調査」
総理府 1989年10月

2. 未婚女子のライフコースに関する考え方

この再就職コースは、有配偶女子だけでなく、青年層からも支持されている。たとえば、総理府の「女性の就業に関する世論調査」

（参考表2）によると、女子の望ましい就業のあり方からみたコースは、仮に、両立コースを支援する社会体制が完全に整ったとしても、それでも再就職コースが圧倒的な支持を受けている。しかも、この再就職コースに限っては、青年男女の考え方が一致しており、それ以外のコースでは、男女間にかんがりの考え方の違いがあるのと対照的である。

未婚女子のライフコースに対する考え方を、結婚観・家庭観から調査したものとして、経済企画庁の「長寿社会における女子のライフコース

参考表2 女性の望ましい就業のありかた (%)

男女年齢	継続コース	再就職コース	専業主婦コース
女 子			
20-24	25.2	59.3	10.4
25-29	23.0	63.5	9.0
30-34	29.2	60.8	6.3
男 子			
20-24	7.7	57.3	24.8
25-29	13.9	59.0	18.0
30-34	18.5	60.5	15.3

継続コース 就業し長く働く

再就職コース 結婚・出産中断後再就業する

専業主婦コース 結婚・出産などを契機に家庭に入る

総理府 「女性の就業に関する世論調査」1989年

「仮に、出産や育児のとき休業制度や保育施設などが完全に整っているとしたら」という前提にたつ質問

5) 中野英子、「教育水準からみた有配偶女子の労働力供給行動——結婚・出産期を中心に——」、『人口問題研究』、第171号、1984年7月、pp.44-50.

6) このことは、クロスセクション・データによるプロフィールでも明らかであるが、厚生省人口問題研究所の現地調査によって、有配偶女子の就業行動の特質から、結婚期間別、子どものステージ別などによる有配偶女子の雇用労働力化のポテンシャルが計量されている。厚生省人口問題研究所（河邊宏・中野英子・山本千鶴子・稲葉寿）、『昭和59年度 家族周期と女子の就業行動に関する人口学的調査』、現地調査報告資料、1985年10月、pp.55-59. 中野英子、「女子の就業意欲の評価」、『人口問題研究』、第180号、1986年10月、pp.52-54.

に関する調査」⁷⁾の結果を紹介しておきたい。

「長寿社会における女子のライフコースに関する調査」は、長寿社会が女子の結婚・出産・育児・就業などのライフ・イベントに対する幅広い選択の可能性をもたらすという立場から、20歳代から60歳代までの女子を対象として、ライフコースの変化の実態や価値観を調査したものである。いまそのなかから、20歳代の女子および未婚で就業している女子の結婚観や家庭観を示すいくつかの指標によって、ライフコースに関する考え方を見てみたい。

参考表3に示すように、若い女子では20代で結婚したほうがよいと考えられており、「経済的に自立すれば結婚しなくてもよい」という考え方は否定されている。つまり、結婚志向は強く、未婚期の就業で経済力があっても、考え方としては、それが直接結婚しないことにはならないということである。結婚はすべきではあるが、結婚しても、子育てと家事で一生を終えたくないという意識は非常に強い。これは未婚女子の多くが結婚（家庭）と職業との両方を志向していることを表すものである。しかし、子どもが小さい間は子育てに専念すべきだという意識もまた非常に強く、未婚女子においても、結婚後のある期間は家庭優先（出産・子育て優先）の考えかたがはっきり示されている⁸⁾。

これらの結果は、若年女子の結婚の意欲が衰えてはいないことを示すものであり、そのうえで、出産・子育てのステージにおける家庭優先の価値観と、結婚後の経済力も必要であるとする意識とは、若い世代にも浸透している再就職コース志向を支えるものだとすることができる。

それにもかかわらず、かつてない高まりを見せている未婚率の上昇は、本当に結婚が遅れているだけなのか、それとも一部にいわれているように、結婚そのものを否定してキャリアを積む傾向が強まりつつあることを意味するのか、その点をライフコースという長期的な視点から、客観的なデータに基づいて確かめる必要がある。

参考表3 20歳代・未婚就業ステージの女性の結婚観・家庭観

結 婚 観 ・ 家 庭 観	20 歳 代	未婚就業のステージ
結 婚 観		
なるべく20代で結婚すべき	+	+
結婚後の経済的自立も必要	+	+
経済的に自立すれば結婚の必要なし	-	-
家 庭 観		
子育てと家事で一生を終えたくない	++	++
子どもが小さいときは家事に専念すべき	++	++
家事を手抜きしてまで仕事に出るべきでない	+	+

経済企画庁「長寿社会における女性のライフコースに関する調査」1986年

- ++ 強く支持する
- + 支持する
- 支持しない

7) 経済企画庁国民生活局編、『新しい女性の生き方を求めて——長寿社会における女性のライフコース』、1987年2月。

8) 女子労働力率のM字型のプロフィールは出産・子育て期の家庭優先、その後の再就職というコースを端的に示すものであるが、有配偶女子のコウホート・データによって確認すると、クロスセクション・データによる以上にM字型の「谷」が深く、出産・子育て期の家庭優先・再就職コースの増加の実態が明らかになる。中野英子、「パリティ拡大過程における女子の就業コース」、『人口問題研究』、第183号、1987年7月、pp.38-44。および、同、「出生行動に関する一考察——家庭機能との関連で——」、『人口問題研究』、第47巻第1号、1991年4月、pp.32-37。

Ⅲ 未婚女子の結婚観——ライフコースとの関連で——

1. データ

1987年に全国標本によって実施した第9次出産力調査の独身者調査から、18歳以上35歳未満の未婚女子2,605人について再集計を行った⁹⁾。

2. 結果

1) 未婚女子が考えているライフコース

最初に、未婚女子が将来のライフコースをどのように考えているかを見ておきたい(表1)。

まず、理想のライフコースは再就職コースと専業主婦コースとがそれぞれ $\frac{1}{3}$ 、これに両立コースを加えると、全体の8割強が結婚し、子どもを生むコースを理想としており、結婚はしても子どもは生まないDINKSコースや、結婚そのものを否定する非婚就業継続コースは非常に少ない。

実際になりそうなコースは、再就職コースがぐんと増えて専業主婦コースが少なくなっているが、具体的なコースには理想と実際とで違いはあっても、結婚し子どもを生むというコースが大部分であることには変わりはない。したがって、将来のライフコースに対する考え方からみても、未婚女子の結婚志向はかなり強いといえる。

表1 未婚女子が考えているライフコース (%)

ライフコース	理想のライフコース	実際になりそうなライフコース
総数	100.0	100.0
両立コース	18.5	15.3
再就職コース	31.1	42.2
専業主婦コース	33.6	23.9
DINKSコース	2.5	1.4
非婚就業継続コース	3.7	7.1

総数にはその他・不詳を含む

次に、実際になりそうなライフコースを年齢別に見ておきたい(表2)。

どの年齢においても、結婚を前提とするライフコースが予想されているが、しかし年齢別にみると、25—29歳を境にしてかなりの違いがみられる。すなわち、18—19歳と20—24歳とでは9割近くが結婚を前提とするコースを考えているが、25—29歳ではそれが $\frac{3}{4}$ になり、30—34歳では $\frac{1}{2}$ と高年齢になるほど少なくなっている。これを逆に非婚就業継続コースからみると、25歳未満では5%不足であるのに対して、25—29歳では1割を超え、30—34歳では $\frac{1}{4}$ に増える。しかし、一見、非婚就業継続コースが増えるからといって、それが直ちに結婚しない女子が増えることにつながるものではない。なぜならば、30歳過ぎまで未婚に留まるもの自体が非常に少なく、30—34歳の非婚就業継続コースは未婚女子全体の1.5%に過ぎないからである。

これらの結果から、未婚女子が予想するライフコースは、大部分が結婚を前提としていることが明らかであるが、しかし、未婚である期間が長期にわたると、徐々に結婚の意志がぐらつくといえるかもしれない。その考え方の変わり目は25—29歳にあり、それを過ぎてなお未婚に留まると、非婚就業継続コースに傾くものが増える。

9) 独身者調査の再集計については、とくに、人口動向研究部 金子隆一主任研究官・人口情報部 石川晃研究員の協力を得た。また、集計用プログラムに関して、厚生省大臣官房統計情報部電子計算機室のご指導を仰いだ。厚くお礼を申しあげる。

表2 年齢階級別実際になりそうなライフコース

(%)

ライフコース	総数	18-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳
	100.0 (2,605)	100.0 (643)	100.0 (1,337)	100.0 (465)	100.0 (160)
両立コース	15.3	12.8	16.0	18.9	9.4
再就職コース	42.2	44.9	46.3	33.8	21.3
専業主婦コース	23.9	27.8	23.3	21.1	21.9
DINKSコース	1.4	0.5	0.8	3.2	4.4
非婚就業継続コース	7.1	4.0	5.2	11.2	24.4
その他	10.1	10.0	8.5	11.8	18.8

()は標本数, 以下同じ

2) 実際になりそうなライフコースからみた結婚の意志

独身者調査では、未婚女子の93%が結婚を志向（「いずれ結婚するつもり」）し、独身志向（「一生結婚するつもりはない」）は5%弱で、結婚志向は依然堅調であった。これをライフコースからみると（表3）、結婚を前提とするライフコースを予想するものは当然結婚志向が強く、なかでも、専業主婦コースの結婚志向が高い。しかし、DINKSコースを予想するものに、僅かではあるが独身志向があり、逆に、非婚就業継続コースを予想するものの独身志向が $\frac{1}{3}$ に過ぎず、その $\frac{2}{3}$ が結婚するつもりでいるという“矛盾”もみられる。

表3 実際になりそうなライフコース別結婚の意志

(%)

ライフコース	総数	結婚志向	独身志向	不詳
両立コース	100.0(399)	92.9	4.6	2.5
再就職コース	100.0(1,099)	96.7	1.8	1.5
専業主婦コース	100.0(623)	98.2	0.9	0.9
DINKSコース	100.0(36)	91.7	5.6	2.8
非婚就業継続コース	100.0(186)	66.1	33.3	0.5

結婚志向 いずれ結婚するつもり

独身志向 一生結婚するつもりはない

3) 結婚志向の未婚女子の結婚の時期

独身者調査では、結婚するつもりの子に、いつごろ結婚したいか（結婚の時期）を聞いている。この設問は、「一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは」として、2つの選択肢を設けている。選択肢の第1は、「ある程度の年齢までには結婚するつもり」で、ここではこれを「年齢志向」と名付ける。第2は、「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」という、結婚志向にかなり強い枠を与える選択肢であって、これを「相手志向」とする。この設問は、「結婚するつもり」に対して、結婚に対する最も基本的な考え方を聞くものであり、結婚に対する選択意識の強さを計る指標となりうると考えられる¹⁰⁾。

表4は、実際になりそうなライフコース別に年齢志向と相手志向の強さを示したものである。両立コース・再就職コース・専業主婦コースでは年齢志向優位である。しかし、DINKSコース・非婚就業継続コースでは相手志向が断然強く、これら“少数派”コースの配偶者選択の難しさをうかがわせる。

10) 金子隆一、「結婚への意識」, 厚生省人口問題研究所, 前掲(注3), 『昭和62年 第9次出産力調査(結婚と出産に関する全国調査)——第Ⅱ報告書——独身青年層の結婚観と子供観』, 調査研究報告資料, 1989年3月, p.15.

両立コース・再就職コース・専業主婦コースを予想するものに年齢志向が強いことは、年齢別にみてもほぼ同じであるが、25—29歳で年齢志向優位が弱まり、相手志向がやや強くなる。そして、30—34歳では相手志向が年齢志向をはるかに上回っている（表5）。DINKSコースは標本数が少ないのではっきりしないが、非婚就業継続コースの相手志向は25—29歳で最も強い。

表4 実際になりそうなライフコース別結婚時期
結婚志向の未婚女子について (％)

ライフコース	総 数	年 齢 志 向	相 手 志 向	不 詳
両立コース	100.0(386)	55.2	43.8	1.0
再就職コース	100.0(1,079)	58.4	40.6	1.0
専業主婦コース	100.0(604)	55.5	42.9	1.7
DINKSコース	100.0(33)	33.3	66.7	0.0
非婚就業継続コース	100.0(123)	28.5	70.7	0.8

年齢志向 ある程度の年齢までには結婚するつもり

相手志向 理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない

表5 結婚志向の未婚女子が結婚時期として重視する要因 (％)

ライフコース	18 - 19 歳		20 - 24 歳		25 - 29 歳		30 - 34 歳	
	年齢志向	相手志向	年齢志向	相手志向	年齢志向	相手志向	年齢志向	相手志向
両立コース	58.8	41.3	55.6	43.0	57.0	43.0	*	*
再就職コース	56.7	43.3	61.8	37.2	51.9	44.9	38.7	61.3
専業主婦コース	62.2	35.5	56.9	42.1	46.3	51.6	33.3	63.6
DINKSコース	*	*	*	*	*	*	*	*
非婚就業継続コース	*	*	36.0	64.0	24.3	75.7	28.6	66.7

*は少数標本、以下同じ

4) 希望する結婚形態

結婚志向をもう少し具体的に希望する結婚形態からみてみよう。

結婚するつもり未婚女子の63%が恋愛結婚志向で、見合い結婚を希望するものは2%にみたく、残り1/3はどちらでもよいと考えている。これを実際になりそうなライフコースからみると（表6）、どのコースでも恋愛結婚志向が強い。とくに、両立コース・再就職コースを予想

するものにその傾向が強いが、DINKSコース・非婚就業継続コースでは恋愛結婚志向がやや弱まり、恋愛・見合いどちらでもよいというものが多くなっている。

表6 実際になりそうなライフコース別
希望する結婚形態 (％)

ライフコース	恋愛結婚	どちらでも
両立コース	63.7	33.7
再就職コース	69.8	27.5
専業主婦コース	57.8	38.1
DINKSコース	48.5	42.4
非婚就業継続コース	51.2	45.5

表7. 実際になりそうなライフコース別希望する結婚形態 (％)

ライフコース	恋 愛 結 婚		ど ち ら で も	
	年 齢 志 向	相 手 志 向	年 齢 志 向	相 手 志 向
両立コース	68.5	59.2	29.6	39.6
再就職コース	70.8	70.1	27.6	28.1
専業主婦コース	62.4	54.1	34.0	44.8
DINKSコース	*	40.9	*	54.5
非婚就業継続コース	60.0	48.3	34.3	50.6

これを結婚の時期別にみると（表7）、恋愛結婚を志向するものでは、どのコースでも年齢志向が強く、非婚就業継続コースになりそうだとするものも例外ではない。ところが、恋愛・見合いにこだわらない女子では、相手志向が強く、とくに、DINKSコース・非婚就業継続コースでその傾向が強い。

5) 交際相手の有無

恋愛結婚をするためには相手が必要であるが、独身者調査の結果では、交際相手をもっている未婚者は意外に少ない。結婚志向の未婚女子の交際相手を見ると（表8）、交際相手なしが約4割で、恋人・婚約者がいるものは1/3弱しかない。交際相手なしは、18—19歳を別にすれば、年齢が高くなるほど多くなり、逆に、恋人・婚約者がいるものは、年齢が高くなるほど少なくなっている。

表8. 結婚志向の未婚女性の交際相手の有無 (%)

交際相手	総 数	18—19歳	20—24歳	25—29歳	30—34歳
総 数	100.0 (2,420)	100.0	100.0	100.0	100.0
な し	39.0 (944)	46.8	35.0	38.4	44.6
友 人	26.2 (633)	30.0	25.3	23.9	24.0
恋人婚約者	32.3 (782)	20.6	37.2	35.6	27.3
不 詳	2.5 (61)	2.7	2.4	2.1	4.1

これをライフコース別にみると（表9）、専業主婦コースと非婚就業継続コースに交際相手なしが多い。このうち、専業主婦コースになりそうだと考えているのは若年で多いことから（表2）、まだ結婚相手を特定する段階にいたっていないものが多く含まれると思われる。しかし、非婚就業継続コースは、（実数はまだ少ないものの）高年齢になるほど多くなるうえに、相手志向が非常に強いことを考えあわせると、高年齢になっても主体的に配偶者を選びうる交際相手をもたないことは、文字どおり、非婚就業継続コースが実現してしまう可能性もありうると考えられる。

表9. 実際になりそうなライフコース別交際相手の有無 (%)

ライフコース	恋人・婚約者あり	な し
両立コース	36.8	39.4
再就職コース	37.7	34.3
専業主婦コース	28.8	42.7
DINKSコース	*	*
非婚就業継続コース	17.9	55.3

以上によって、圧倒的の大部分の未婚女子が結婚するライフコースを予想していることが明らかになったが、それにもかかわらず、なぜこんなにも未婚率が上昇しているのかをライフコースとの関連で考えてみたい。

IV 晩婚化とライフコース

1. 「年齢志向」から「相手志向」への変化の意味

まず未婚率の上昇——結婚の遅れ——を説明する鍵として、先にみた年齢志向と相手志向とをもう一度検討してみたい。

ライフコースに関する考え方が年齢の高まりによって徐々に変化する要因は、未婚女子が結婚の時期として年齢を重視するか、あるいは、理想的な相手の出現を重視するかにあるとみることができる。すなわち、若いうちの結婚志向は、「ある程度の年齢までに結婚するつもり」という、漠然としたニュアンスが強いものであり、その段階で予想されるライフコースは、圧倒的に再就職コースと専業主婦コースであった。ところが、25—29歳あたりから、次第に相手志向を強め、相手が得られなければ結

婚しなくてもかまわないという考え方に傾いていく。そして、再就職コースがかなり大きく減少し、それに代わって非婚就業継続コースが増えているが、同時に、ライフコースの見通しがはっきりしないその他も増えている。

この相手志向が強くなる段階で、現実には結婚を考える交際相手がいないとなれば、あるいは、結婚しないことを想定して、非婚就業継続コースを選択することもありうるといえよう。このことは、非婚就業継続コースを予想するものが、必ずしも独身志向ではなく、むしろ、結婚したいと思っている者の方が多いこと（逆に、結婚を前提とするコースにも独身志向が僅かではあるが、表3参照）からも裏付けられる。

このように考えると、未婚女子が実際になりそうだと考えているライフコースが結婚観を規定するというよりも、結婚したいという意志が、若いうちの年齢志向から次第に相手志向に変化し、具体的な配偶者選択の機会がないままに高年齢まで未婚にとどまると、“一般的”なコースではなく、非婚就業継続コースのような“特殊な”コースを予想するものが増えるといえるのではないだろうか。つまり、非婚就業継続コースは積極的に選択されるコースというよりも、結果としてそうなる可能性が高いということであって、非婚就業継続コースを選ぶから結婚しないということではないと考えられる。

このことは理想のライフコースと実際になりそうなライフコースとのクロスからも確かめることができる（表10）。理想のライフコースと実際になりそうなライフコースとが一致すると考えている女子は意外に少ない¹¹⁾。両者の一致度が高いのは再就職コースだけで、理想の両立コースや専業主婦コースも実際は再就職コースになるだろうと考えられている。結婚するかしないかということからみれば、これらの違いは問題ではないが、面白いのは、非婚就業継続コースを理想とするものも、大部分が結婚するコースになりそうだと考えていて、実際に非婚就業継続コースになるだろうと予想するものは1割にも満たないということである。逆に、結婚するコースを理想とするものの中にも、非婚就業継続コースになりそうだとするものもいるから、これらを考え合わせると、非婚就業継続コースは意図して選択されるというよりは、結果としてそうなるという意味合いが強いといえる。

表10 理想のライフコース別予定のライフコース
結婚の意志ありのみ

理想のライフコース	予 定 の ラ イ フ コ ー ス					
	両立コース	再 就 職	専業主婦	DINKS	非婚就業	そ の 他
両 立 コ ー ス	21.7	47.0	13.7	2.6	7.1	3.0
再 就 職 コ ー ス	19.9	42.8	28.3	0.9	5.4	2.7
専 業 主 婦 コ ー ス	10.7	54.2	28.7	0.5	3.2	2.8
D I N K S コ ー ス	24.1	29.6	14.8	13.0	18.5	—
非 婚 就 業 継 続 コ ー ス	19.6	39.3	30.4	—	8.9	1.8
そ の 他	6.0	10.9	11.9	1.5	2.5	67.2

理想の各ライフコース = 100

2. 未婚男女の結婚観の違い

独身者調査によると、圧倒的大部分の未婚女子が結婚を望みながら、現実には独身生活のメリットを享受していることがうかがわれる。夫婦調査では結婚にいたる実際の過程をretrospectiveな手法

11) 「将来の生活設計において、男子と女子とがもっとも明白に異なることは、——女性、とくに若い女性は、自分の人生が出産というできごとで全く変わってしまうという予期をもつこと——」（江原由美子、「日常生活とジェンダー」、江原由美子他、『ジェンダーの社会学』、新曜社、1989年5月、p.34）が理想と実際になりそうなライフコースとの大きな不一致をもたらすのかもしれない。

によって収集されたコウホート・データによって分析することができるが、独身者調査ではその方法は採れない。したがって、ここでは、未婚男女の結婚観（独身観）の違いという、いわば“外堀”を埋めることで結婚の遅れを考えたみたい。

未婚女子は結婚することの利点（結婚の効用）は認めており（74%）、結婚に利点はないとするものは少ない。しかし、具体的な利点となると、本当に結婚を望んでいるのか疑われるほど、積極的な評価を与えていない。ところが、独身生活に対しては、非常に具体的かつ大きなメリットを意識している。

未婚女子が結婚生活にはない独身の利点として評価する最大のものは、「生き方や行動の自由」であり（表11）、第2の利点は「友人などとの人間関係が保ちやすい」である。25歳以上では、「行動の

自由」と「経済的に裕福」との組み合わせになる。この2つの利点は、男子より女子にずっと強く意識されていて、未婚女子がこの「行動の自由」と「友人関係」、「経済的な豊かさ」とによって独身生活を謳歌していることがうかがわれる。

見方を変えて、結婚相手たる未婚男子が、未婚女子に対してどんな結婚生活を望んでいるか、これを、男子が女子に期待するライフコースによってみたい（表12）。

未婚男子が女子に期待するライフコースは、未婚女子が実際になりそうだと考えている以上に再就職コース・専業主婦コースに集中している。とくに、恋人・婚約者がいて、結婚が具体化する段階にある男子は、再就職コースを強く求めている。未婚女子にとって、この男子から期待される再就職コースは、結婚後の一時期を家庭にあって出産・子育てに専念することであって、少なくともこの間は、独身生活の大きなメリットが強い制約を受けることを意味しているのである。

V 結びにかえて

未婚率の著しい上昇は、青年の結婚行動にさまざまな疑問を投げかけている。本稿は未婚女子の結婚観をライフコースに関する考え方から接近し、あわせて、晩婚化との関連を探ろうとする試みであっ

表11. 結婚生活にはない独身の最大の利点
結婚志向の未婚女子について (％)

年齢階級	行動の自由	友人など	経済的裕福
総 数	61.8	15.2	6.4
18 - 19	58.4	19.4	4.6
20 - 24	62.3	14.0	7.0
25 - 29	65.4	14.1	5.8
30 - 34	59.0	11.0	12.0

年齢階級 = 100
総数にはその他を含む。

表12. 結婚の意志ある未婚男子が女子に期待するライフコース (％)

男子が期待する ライフコース	総 数	20 - 24	25 - 29	30 - 34
	100.0 (3,027)	100.0 (1,355)	100.0 (785)	100.0 (346)
男 子				
両立コース	10.7	10.3	12.6	13.6
再就職コース	40.1	39.4	40.9	41.9
専業主婦コース	39.5	41.6	38.5	30.3
DINKSコース	0.6	0.4	0.6	0.9
非婚就業継続コース	0.3	0.3	0.1	0.3
そ の 他	8.9	8.0	7.3	13.0
恋人・婚約者あり	100.0	100.0	100.0	100.0
両立コース	10.5	8.5	16.4	9.5
再就職コース	43.6	44.7	42.3	57.1
専業主婦コース	39.2	39.5	36.2	21.4
DINKSコース	0.6	0.5	0.9	-
非婚就業継続コース	-	-	-	-
そ の 他	6.1	6.7	4.2	11.9

総数には18 - 19歳を含む。

た。

未婚女子が将来の生活としてイメージしているライフコースは、その大部分が結婚し子どもを生むことを前提とするものであり、結婚しないコースを予想するものはごく僅かであった。その意味では、結婚志向は依然堅調であるといえることができる。

具体的なライフコースとしては、再就職コースと専業主婦コースとで7割強をしめ、これら2つのコースが大部分の未婚女子が考えている結婚後の生活像だといえることができる。未婚女子のライフコースには、多様な選択肢があるようにみえて、その実、これらのコースは、既婚女子が実際にたどっているライフコース、あるいは、出産・子育て期にある女子が現実になりそうだと考えているライフコースそのものである¹²⁾。その意味では、未婚女子の結婚志向はいずれ結婚という形で具体化するとみることも可能であり、ライフコースに関する考え方が未婚女子の結婚行動を規定する力はそれほど強くはないといえることができる。というよりも、結婚を当然のこととして、ライフコースを予想しているといったほうがいいかもしれない。

しかし、この結婚を前提とするライフコースには、年齢が高くなるのにもなっけてかけりがみられるようになり、実数は少ないものの、非婚就業継続コースを予想するものの割合が増える。したがって、非婚就業継続コースのような“少数派”では、ライフコースに関する考え方が結婚観を左右するといえそうである。そうだとすれば、今後、非婚就業継続コースを選択する女子が増えるようなことになれば、独身志向が強くなるとみることも、あるいはできるかも知れない。

しかしながらこの非婚就業継続コースは、キャリア志向が積極的に選択したものとは考えにくい。このことは、このコースを意図的に選択しようとしているものが非常に少ないことに加えて、非婚就業継続コースでも結婚志向が強いこと、希望する結婚時期が年齢の高まりとともに年齢志向から相手志向へ変化する過程で非婚就業継続コースが増加することや、高年齢になっても交際相手のいないものが多いことなどから、消極的に選択されるという意味あいの強いコースだといえるのではないだろうか。したがって、独身志向がもっと強くない限り、非婚就業継続コースが結婚観を左右する可能性は小さいとみるべきであろう。

非婚就業継続コースが積極的に志向されたものではないにもかかわらず、結婚の遅れが進んでいることをどう考えたらいいのだろうか。

再就職コースや専業主婦コースは、いうまでもなく、家庭内における夫と妻の役割分業を現状のまま維持しようとするものである。未婚女子が実際になりそうだと考えるライフコースが再就職コースに「収斂」するのも、男子の価値観あるいは期待するところを女子自身が充分に知っているからではないだろうか。だから、結婚すれば、出産・子育てに専念して、行動の自由も友人との交際も制約され、そのうえに、仕事を辞めることで自由になるお金にも不自由するとなれば、結婚はしたいけれども、独身生活の大きなメリットを放棄して、結婚を急がなければならない必然性は弱いといえよう¹³⁾。

独身の利点は、裏返せば、結婚の不効用である。結婚の不効用が未婚女子に強く意識されている限り、「結婚のモラトリアム」ともいえるべき行動に歯止めをかけることはむづかしいと思われる。

12) 東京都生活文化局の調査によると、娘が理想とするライフコースとその母親が実際にたどったライフコースとは、きわめて強い相関がある。東京都生活文化局、『女性の就労パターンに関する時系列的研究報告——女性の就労に関する意識調査』、1989年11月、p.20 および pp.113-119。

13) 本稿の作業が終了したあとで、上子武次他『結婚相手の選択』が出版されたことを知った。この書は、兵庫県において性格の異なる地域を選定し、それぞれの地域で配偶者選択の過程および地域特性とのかかわり、配偶者選択過程と結婚後の生活との関連などを調査した結果をまとめたものである。そのなかで、「結婚によって妻が失ったもの」についての分析があるが、それによると、「結婚によって失ったものに関しては、結婚年度・結婚年数による違いがなく、結婚は普遍的に女性から自由を奪うものよう」であり、妻が失った自由は、第1に「自由になる時間」、第2に「自由になる金」、第3に「行動の自由」であることが報告されている。上子武次他、『結婚相手の選択——社会学的研究——』、行路社、1991年3月、pp.98-99。

Attitudes toward Marriage among the Unmarried Japanese Women
——from Viewpoint of their Expected Lifecourse Patterns——

Eiko NAKANO

Although Japanese women are still strongly marriage-oriented in their aspirations towards life, there is a dramatic increase in women remaining unmarried well into their marriageable age. The aim of this paper is to study the perspectives unmarried women hold towards marriage, and towards their lifecourse. This paper will also attempt to determine how changing lifecourse perspectives among unmarried women are influencing the trend towards later marrying ages.

1. Sample of 2,605 unmarried women aged 18 to 34 derives from the 9th National Fertility Survey conducted by the Institute of Population Problems, Ministry of Health and Welfare in 1987, carried out for the nationally representative sample.

2. Results

(1) Most unmarried women hope to be married and have children in the future. Those who do not plan to marry, and those who do not plan to have any children after marriage, constitute only a very small minority. These findings clearly show that when they look forwards towards their lifecourse, currently unmarried women are strongly marriage-oriented.

(2) However, as they grow older, unmarried women begin to have doubts about their marriage-oriented perspectives towards life. In the single women aged 25 to 29 and above, many respondents indicated that they still hope to be married, but are beginning to think that they might remain unmarried.

(3) The attitude change indicated in the above finding, can be explained by a sentiment that is being expressed by an increasing number of unmarried women: that they hope to get married eventually, but they are putting off marriage until they meet the ideal partner.

(4) Although unmarried women fully recognize the merits of marriage, they tend to base their attitudes more on very realistic and concrete appraisals of the merits of single life. They list "freedom", as the greatest reason for staying single. Unmarried men now expect their future partners to go back to work after marriage, knowing that this is what women want.

Unmarried women, in turn, know that they will probably be able to continue working after marriage if they wanted to, but are deterred by the feeling that marriage will deprive them of the "freedom" that they value so much in single life. Thus, while still planning to marry eventually, more women are putting off marriage. In conclusion, the increase in the proportion of unmarried women in the marriageable age, is not so much because they have chosen the unmarried lifecourse in order to pursue their careers, but rather, merely because they are putting off marriage until later.